



今を生きる

園長 御手洗 竹代

朝、一番に保育室を訪れると、なんとも言えない柔らかな香りがします。近くにいる子どもに尋ねると、窓際を指さし「ヒアシンスじゃない」と、さも当たり前のように教えてくれました。毎朝こうして春の花に迎えられることはなんと幸せでしょう。春はそこまでやってきていますね。

子どもたちの生活もそれぞれ進学・進級に向けてまとめの時期となりました。先日の誕生会では、年長児が得意技を披露してくれるコーナーがありました。事前にコマ回し・縄跳び・フラフープ・竹馬・一輪車の中から1つを選んできています。軽快な音楽にのって次々に登場しては誇らしげに自分の得意なことを見せてくれました。少し緊張してできるかどうかを心配している子、自分の番が待てずにウキウキとしている子、表情は様々です。どれも、この日のために特別に練習してきた訳ではありませんが、節目があることで、子どもたちはより輝きます。

子どもの生活は、いつでもやってみたいことに満ちています。思った通り、うまくいくこともあればそうでないこともあります。子どもにとって、やってみたいことだから粘り強くする力が湧いてくるのです。幼児期の教育は何かをさせる教育ではありません。環境を整えて子ども自らがやりたいと思うことを掘り起こし、自分なりにやれたといった感覚を育てています。そしてそれは人として将来、どんな生き方をしたいかにつながることです。自分でしたいことを考え、その手段を選び、仲間と力を合わせる。このことを覚えていれば、どのように環境が変わってもたくましく生きていくことができるでしょう。

右の詩は私の好きな「クマのプーさん」の作者A・Aミルンの詩です。(藤代恵美子訳)
子どもには自分のことが大好きで、今を十分に生きてほしいと願っています。

教職員一同、健やかな子どもたちの成長を願って、教育活動を進めてまいりました。今しばらくは、行事などの変更も予想されますが、保護者の皆様にはご理解とご協力のほど、引き続きよろしくお願いたします。

おしまい

ぼくがひとつのとき 生まれたて
 ぼくがふたつのとき まだまだ生まれたばかり
 ぼくがみっつのとき やっとぼくらしくなった
 ぼくがよっつのとき たいしたことなかった
 ぼくがいつつのとき ひとり歩きだして

でもぼくはいまむっつ
 いちばんあたまがいいんだ
 だからいつまでも、
 いつまでも、
 むっつのままで
 いようとおもうんだ

